

平成24年2月

# 黒田博彦 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦  
副主査 村 脇 義 和  
同 池 口 正 英

## 主論文

Decreased number and reduced NKG2D expression of V $\delta$ 1  $\gamma\delta$  T cells are involved in the impaired function of V $\delta$ 1  $\gamma\delta$  T cells in the tissue of gastric cancer

(胃癌組織におけるV $\delta$ 1  $\gamma\delta$ Tリンパ球数減少とNKG2D発現低下はV $\delta$ 1  $\gamma\delta$ Tリンパ球の機能低下  
に關与する)

(著者：黒田博彦、齊藤博昭、池口正英)

平成24年 Gastric Cancer 掲載予定

## 審査結果の要旨

本研究は、胃癌47症例を対象として末梢血、正常胃粘膜、癌組織における $\gamma\delta$ Tリンパ球の頻度、IFN- $\gamma$ 産生や $\gamma\delta$ T細胞活性化に重要なレセプターであるNKG2Dの発現をフローサイトメトリーで検討したものである。その結果、胃癌組織においてTリンパ球の主要なサブタイプであるV $\delta$ 1 $\gamma\delta$ Tリンパ球の頻度減少とIFN- $\gamma$ 産生低下が明らかとなった。V $\delta$ 1 $\gamma\delta$ Tリンパ球の機能低下にはNKG2D発現低下が関与している可能性が示唆された。本研究の内容は、胃癌組織におけるV $\delta$ 1 $\gamma\delta$ Tリンパ球数減少とNKG2D発現低下はV $\delta$ 1 $\gamma\delta$ Tリンパ球の機能低下に関与することを示したものであり、明らかに胃癌研究の学術水準を高めたものと認める。